

出逢いから始まる

小規模ホームもくれんが開所して今年で五年が過ぎました。その間多くの方々との出逢いと別れがありました。

今回はその中でも弊所をご利用頂き、そのまま併設の「グループホームもくれん」へご入居頂いたご夫婦のお話をさせていただきます。このご夫婦との出逢いは開所から少し経ったある日、奥さんの入院先の相談員さんからご利用のご相談がありました。ご夫婦は長年都会で生活をしておられましたが、旦那さんの実母の介護のため子どもさんが暮らす都会を離れて、お二人で U ターンされたとお聞きしています。そして、奥さんのご退院後のご夫婦の在宅生活の支援のためにサービスのご利用が始まりました。ご利用当初、旦那さんはご自分で運転をしてご夫婦一緒にパチンコや外食に出掛けたり、これまで通りにイチジク畑でイチジクを作り出荷されたり、奥さんも多少の不自由はお感じになりながらも出来る事はご夫婦と一緒にして過ごしておられました。

ご本人による選択

私たちは、ご夫婦それぞれの暮らし方に合わせて訪問を中心とした柔軟なサービスの提供と、非常に協力的な子どもさんたちとの連携を大切に、ご夫婦とご家族の希望であった「一日でも長くこの家で生活したい」が実現出来るように長い間お手伝いさせて頂きました。しかし、旦那さんが自動車の運転が難しくなり、免許を返納してからというもの、生活範囲が縮んでしまい、ご夫婦だけの暮らしに不安を感じるが増えて参りました。

そして『このまま自宅で生活して行くのは難しいかも』、誰もが分かってはいますが中々口には出し難い意思決定でした。その中でご夫婦、ご家族が出された答えは「このまま住み慣れたこの地域で暮らす事を前提にして、出来る限り自宅で生活して、どちらかが難しくなったら夫婦揃って併設の“グループホームもくれん”へ入居する」というものでした。

それから月日が流れ、奥さんの歩行状態が悪化して、段差だらけの自宅での生活が難しくなったところで“グループホームもくれん”にいつべんに二部屋空きが出たため、ご家族の希望ではありましたがご夫婦でのご入居が決まりました。

そして旦那さんは長年患っておられたご病気の影響もあり、少しずつ老衰の橋を渡り始めていきます。旦那さんは最期を迎えるにあたり「お母ちゃんには悪いことをしたな、こんな田舎に連れて来てしまっ。わしはお母ちゃんが居てくれてほんまに幸せや」と仰られました。また「わしが死んだらお母ちゃんにはお母ちゃんが生まれ育った都会へ帰らせてやって欲しい」そのようにお願いをされ、旦那さんはご家族に見守られながら併設の「看取りの家」にてご家族や奥さんに見守られながら深い眠りにつきました。

うちはここでエエ

その直後、奥さんも旦那さんと同じく高齢で心労も重なり体調を崩されました。奥さんには旦那さんの残された言葉をお伝えし、ご意向をご確認させて頂くと「うちはここでエエ」と、大好きな旦那さんが眠るこの地で最期を迎えたいと意思決定されました。そして奥さんも旦那さんと同様に「看取りの家」にてご家族に見守られながら、深い眠りにつかれ、今はご夫婦で一つ同じ場所でお眠りになられています。

ご家族からは、柔軟な小規模多機能型居宅介護ならではの支援と、継続した人間関係、環境の中、ご夫婦お二人と一緒に暮らすことが出来た併設のグループホームでの暮らし、そして最期の瞬間まで「看取りの家」で家族が共に過ごせたことなど、たくさんのご感謝されました。こちらこそ、ご夫婦の愛、ご家族との絆、様々な学びを頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げ、これからも一人でも多くの方の「幸せ」のお手伝いが出来るように頑張っていきたいと思っております。



もくれんだより

おちらと

<もくれん広報誌 編集委員会>

株式会社もくれん
広報誌 第5号
2019.08.01 発行

株式会社 もくれん 〒693-0052 出雲市松寄下町 1286-1 Tel (0853)25-7230 Fax (0853)25-7231

URL:izumo-mokuren.com E-mail:mokuren@honey.ocn.ne.jp

株式会社もくれん 創業 10 周年記念祝賀会を開催しました。

令和元年五月二十五日 (土)
レストランピアムーン



上田社長へ、サプライズ！！
職員一同から感謝と労いの花束と記念品の贈呈がありました。
10周年、おめでとうございます。

(株)ALL SMILES

門脇 大樹さん

(シンガーソングライター)



去る令和元年五月二十五日にレストランピアムーンにて「株式会社もくれん 10周年記念祝賀会」が開催されました。職員主催による自主的な手作りの会ではありましたが、ご来賓の方々から「職員の皆さんの気持ちの籠ったとても温かな会でした」とお褒めの言葉を多数頂戴しました。これも偏にこれまで十年の間、ご利用して下さった皆様、ご家族、地域の皆様、関係者の皆様など、今回ご来場頂いた皆さんをはじめとした、たくさんの方のお力添えがあつてこそかと思えます。この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。また、このような素敵な会を計画してくれた職員の皆さんに対して、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも「その先にあるお一人お一人の幸せに向かって」この地域のために、社会のために、職員一同力を合わせて頑張つて参りたいと思います。

今後もどうか末長く「株式会社もくれん」をご愛顧頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

令和元年八月吉日

株式会社もくれん

代表取締役 上田 英範

本店

6月28日(金)、やっと笹が用意でき、例年より遅くなりましたが“笹巻き”作りをしました。ご利用者の方と昔を思い出しながら楽しく作りました。



皆さんのお知恵をお借りました。



昔取った杵柄、流石ですね。



団子も丁寧に形を整えて・・・



島根名物「笹巻き」の出来上がり



美味しく召し上がって頂きました。



奉納山公園ではいチーズ！



とげに注意して採りました。

荒茅店

6月24日(月)～29日(土)は“かたら団子”作りをしました。奉納山公園へかたらの葉を採りにお出かけして、ご利用者の方に教えて頂きながら団子作りをしました。



沢山「かたらの葉」が採れました。



愛情をこめて作りました。



美味しかったです！！

グループホームもくれん（認知症対応型共同生活会議事業所） TEL 43-8522

グループホームでは日頃より、個々の活動の時間を大切にしています。ご利用される皆様の生活の場所として、食事作り、洗濯物干し、お茶飲み話し、お出かけ、買い物など、その日、それぞれに活躍の場所があり、持っているお力を発揮して頂ける機会を設けています。

お一人お一人の人生の最期の瞬間まで生き生きと過ごして頂くためにも、その日その時に何をして頂いたら良いのかを見極めて、お互いの存在を認めあえるそのような居場所創りをしていきたいと職員一同で取り組んでいます。ここで、ほのぼのとした出来事をご紹介します。

今年の7月。Sさんが開所当時に植えられた小さな赤いバラが咲き誇り、素敵なバラ園が出来ました。日頃よりお世話焼きのSさんは皆さんに声をかけて、とても嬉しそうに、毎日の剪定を欠かさず、ご利用者や職員に花束にして分けて下さいます。

「素敵ですね」「ありがとうございます」といった言葉がSさんの元気の源となり、次第に笑顔も増えていきました。ある時、そのバラの花束をもらわれた方が、ご自分でその花束を持ち帰り、リビングや床の間にキレイに飾って下さりました。またSさんと仲良しの方にも、バラの花を分けてあげられ、その方はそのバラの花束を自室へと持ち帰りになられ、今は既に亡くなられておられる旦那さんのお写真の前にそっと置き、「お父さん、バラの花束もらったよ」とご報告しておられました。

Sさんが役割を持って育てられたバラの花のおかげで、皆が嬉しい気持ちになれた、そのような一日でした。



介護のよろず相談所もくれん（居宅介護支援事業所） TEL 25-7591

私たちケアマネジャーは、ご本人さまとご家族さまそれぞれの「生活に対する意向」を確認し、意向に沿った支援を心掛けています。そのような中での、とあるご利用者さまのお話です。

その方は、足が痛くて歩き難いため、自宅内で転ぶこともよくありますが、お一人での生活をなんとか送っておられます。ご本人さまは「私もずいぶん悪くなってしまって。大変な思いをしているけど、娘がいつ帰ってきてても良いように、家を守っているんだよ。盆や正月、帰ってきた時に美味しいものを食べさせてあげたいんだよ。だから毎日がんばらないといけないんです。」と仰られています。そして、その当の娘さまは次のように仰られています。「家に1人で暮らし続けることはもう難しいと思う。最近も入院することがあったから心配。私のことはいいから、自分自身の生活を考えてほしい。施設に入ってもらおうと安心して生活できるんじゃないかと思う。」今はお互いに離れて暮らす、ご本人さまと娘さま。お互いのことを大切に思い、お互いを愛する気持ちに溢れた、それぞれの思いがありました。

今ケースのご利用者さまへのご支援としましては、娘さまが帰って来た時に娘さま自身が寝泊りできる場所を確保することと、介護スタッフが常駐する場所で生活することで安心できるのではないかと考えて、サービス付き高齢者向け住宅等への「住み替え」を提案させていただきました。今では親子で安心した環境のもと、お互いに穏やかな生活を送ることが出来ています。

ご利用者さまの価値観や今までの生活歴等、大切にしていることは何かということを総合的に検討し、提案をさせていただく。今後も「その人らしさ」を大切に引き続き支援をさせていただきたいと思っております。

